

事務事業チェックシート

事務事業No 711 事業名 特別陳列事業

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
基本方針	2	文化遺産の公開・活用

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	額田 雅裕(423-0003)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		社会教育費
	目		博物館費
	大事業		博物館事業
	事項		特別陳列事業

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束	地元教育の推進			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	館蔵資料を中心に展覧会を構成し、市民に有用な話題を提供することによって、市民文化の向上に寄与する。	会期を春(4月から6月)と冬(1月から2月)に、公開日数それぞれ約50日程度で設定し、館蔵資料を中心として展覧会を構成する。集客ツールとしてポスターは配布するが、図録は発行しないが、展示資料目録を配布する。なお、冬の特別陳列は、毎年小学生社会科の単元『移り変わる私たちのくらし』に対応した民具・農具を展示し、市内外から多くの小学生の団体見学を誘致している。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		館蔵資料を中心に「博物館へ花見に行こう」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	館蔵資料を中心に「和歌山歴史再発見」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	館蔵資料を中心に「古文書から探れ」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	館蔵資料を中心に「古文書から探れ」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	館蔵資料を中心に「古文書から探れ」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。

2 事業コスト

事業費等 千円			平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
			当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		281	288	270	235	288		288		288	
	伸び率 (%)		-	-	-3.9%		6.7%		0.0%		0.0%	
	人件費	常勤職員	2,897	3,647	3,647	2,997	3,647		3,647		3,647	
		非常勤職員	0	0	0	0	0		0		0	
		小計	2,897	3,647	3,647	2,997	3,647		3,647		3,647	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他		0									
	一般財源(税等)		281	288	270	220	288		288		288	
	所要人数	常勤職員	0.39	0.50	0.50	0.40	0.50		0.5		0.5	
非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.38	0.00		0		0		
主な予算内訳												

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	特別陳列開館日数				年度目標値	83	83	83	83
					実績値	73	77		
	単位	日	全体目標値	78	全体目標達成度	87.9%	92.7%		
					年度目標値				
					実績値				
成果指標	特別陳列入館者数				年度目標値	3,600	3,600	3,600	3,600
					実績値	4,836	4,057		
	単位	人	全体目標値	3,600	全体目標達成度	134.3%	112.7%		
					年度目標値				
					実績値				
	単位		全体目標値		全体目標達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	この事業は、館所蔵品や民間からの寄贈品を元に開催するため歴史博物館に対し、理解のある市民の好意のうえに成り立っている。また、小学生が授業のため来館する際は、様々な知識が必要なため、数少ない学芸員時間をやりくりし説明や質疑応答の対応を行っている。
「見直し」 「改善」案	